



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

新任挨拶



神経内科

部長 金井 数明

平成30年9月1日付で神経内科部長を拝命いたしました金井 数明と申します。自分の使命の一つは、福島医療圏に一人でも多くの神経内科医、あるいは神経内科に親和性を持った医師を育て/増やし、地域医療の発展に貢献することだと考えています。

神経内科、と言われてどのような診療科なのか、すぐにぱっと思い浮かぶ方は少ないと思います。日本神経学会のHPでも「脳神経内科はわかりにくいといわれることがあります。科の名称が紛らわしいことも一因であると思いますが、特に間違えられやすいのが精神科、精神神経科、神経科、心療内科などです。」とあります。

でも、そうではありません。

神経系の主訴で来院される患者さんの半数程度は、頭痛やめまいを主訴に来院されます。こういった頭痛・めまい・しびれ・痛みなどの他、脳梗塞・てんかん・認知症などのよくある病気を診療する内科、それが神経内科なのです。

またその一方、神経変性疾患や神経免疫疾患といったいわゆる神経難病を診察するのも神経内科です。アルツハイマー型認知症はよく見かける神経変性疾患ですが、その他にパーキンソン病・パーキンソン症候群・筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症・多発性硬化症・重症筋無力症といったものがあり、そういった病気の治療を行うことも重要な役割の1つです。

福島の脳梗塞の死亡率は現在全国7位(2017年)ですが、こういった指標を今後少しでも改善していきたいと思ひますし、また神経難病の医療も今後一層充実させていきたいと思ひます。

皆様どうかよろしくお願ひいたします。

病院食堂・再オープン

10月15日(月)8時、病院食堂は「ひかり食堂」として再オープンしました。

ラーメン、そば、うどん、カレーライス、定食類のほか、そばランチ、ラーメンランチやデザートメニュー等があります。どなたでも利用できますので、どうぞお気軽にご利用ください。

○営業時間

病院食堂『ひかり食堂』

平日 8:00~20:00

土日祝 9:00~19:00



第44号のなかみ

1ページ...○新任挨拶 ○病院食堂・再オープン

2ページ...○永年勤続表彰

●受賞者名簿 ●受賞者代表挨拶

3ページ...○須賀川支援学校医大校学習発表会

○患者サービス向上委員会講演会

4ページ...○人工透析センター移転について ○新生パンダハウス

病衣・タオル・紙おむつ・日用品・付添寝具

手ぶらで入院・手ぶらで退院

入院セットレンタル

お申込・お問合せ先: レンタル受付窓口

024-548-8777



* 院内1階、入院受付横 9番窓口
月~土曜日 9:00~17:00(日祝祭日休日)
土曜日はきぼう棟1階ローソン南側に営業します。



マチのほっとステーション
LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店 (エレベーターホール隣)
ローソン福島県立医科大学店 (7号館内)

永年勤続表彰

平成30年度永年勤続表彰受賞者

消化管外科学講座 (消化管外科)	専門医療技師	齋藤 勝治	看護部	看護師長	泉 淑子
検査部	専門医療技師	渡辺 洋子	看護部	副看護師長	武田 和枝
検査部	専門医療技師	大橋 一孝	看護部	副看護師長	吉田 明子
検査部	副検査技師長	佐々木義和	看護部	副看護師長	菅野 礼子
放射線部	専門放射線技師	村上 克彦	看護部	副看護師長	渡辺 陽子
放射線部	主任放射線技師	八木 準	看護部	副看護師長	梅津百合子
病理部	主任医療技師	八巻 俊文	看護部	主任助産技師兼看護技師	伊藤 修代
リハビリテーションセンター	リハビリテーション技師長	小野 洋子	看護部	主任看護技師	菅野真奈美
臨床研究センター	看護師長	杉田ゆかり	看護部	主任看護技師	田中 美紀
看護部	看護師長	渡邊 弘美	看護部	主任看護技師	本田由佳里
看護部	看護師長	佐藤みつ子	看護部	主任看護技師	安齋 清江
看護部	看護師長	栗原 由美			

平成30年度永年勤続表彰をうけて

リハビリテーションセンター 技師長 小野 洋子



この度は、永年勤続表彰を頂きありがとうございました。30年という年月を無事勤めて来られたのは、私たちを支えて下さった皆様のおかげと深く感謝しております。

私たちが就職したのは昭和63年、最期の昭和の入職となります。医科大学附属病院は新しく移転してきたばかりで、どこもかしこもが新しく、この病院で働くことに希望をもって仕事に就いたことを思い出します。その頃は、まだいくらかゆとりのある時代でした。患者さんの入院期間も長く、看護師さんにナース

キャップがあり、診療科も少なかつたと思います。それからの30年は変革と激動の日々でした。医科大学附属病院は県立から公立大学法人となり、患者さんの在院日数は短くなり、看護師さんのナースキャップがなくなり、診療科も増え、より専門的になり、スタッフも増え、組織も増大しています。そして、仕事量も増えています。また、東日本大震災があり、放射線事故があり、私たちや、医療を取り

り巻く環境も大きく変わりました。プライベートでも、皆それぞれ、色々な事があったと思います。入職した時にはぴかぴかだった病院も老朽化し、私たちも年をとりました。この30年間は長かったようにも短かったようにも思います。

今までは医大病院のスタッフの一員として、とにかく目の前の仕事をこなすことに精一杯の日々でした。これからは、それぞれの所属で、より大局的に物事を捉えながら、福島医大病院がさらに発展していけるように努めていきたいと思ひます。

11月4日（日）に医大病院2階のカンファランス室をお借りして学習発表会を行いました。小学部は、「みんなの学校☆ありがとう友達」をテーマにして本の朗読や調べ学習、合奏や合唱の発表を行いました。登校できた児童が多く、とても賑やかな雰囲気となりました。中学部は、それぞれにテーマをもって調べ学習を行い、それを資料にまとめて発表しました。テーマに基づいて詳しく調べたことについて、分かりやすく伝えることができました。体調の回復により、当日に参加できた児童生徒もあり、堂々とみんなの前で発表していました。来賓の方や旧職員、主治医の先生など多くの方々にご覧いただき、子どもたちも緊張しながら



練習の成果を十分に発揮することができました。

後半は、医大校の教室にてバザーや作品展示、お楽しみゲームを行いました。在籍生だけでなく病棟からもたくさんのお子さんや保護者の方に来校いただき、盛大に開催することができました。病院関係者の方々やボランティアの学生さんなど、多数の方にご協力をいただきましたことに感謝いたします。



患者サービス向上委員会講演会

患者サービス向上委員会主催の講演会が、平成30年8月30日に開催されました。

今年は、患者サービス研究所の三好章樹先生と秦野美和先生をお迎えし、「患者が今求めるサービスとは」～職員も楽しい！患者さんも嬉しい！心に響く瞬間の創り方～をテーマに講演いただきました。

「なんでも話あえる組織作り」が「オペレーションを超える病院」に繋がり、「現場からどんどん改善が生まれる」。そのための、「1日5分のHIT-Bit」の重要性をお話いただきました。

当日は、病院長をはじめ、医師・看護師・技師・事務職員等162名の方々に参加していただき、アンケート結果においても「心に響く内容だった」等大変高い評価を得ました。



患者サービス向上委員会では、今後も「患者様に選ばれる病院」を目指して、様々な活動を展開して行きたいと思っています。全職員の皆様のご協力をお願いいたします。





人工透析センター移転について

人工透析センター 部長 田中 健一

人工透析センターは、福島医大病院の中央診療部門として血液浄化療法を担当しています。腎臓の働きが悪くなってしまった腎不全患者さんの透析治療導入や、合併症治療などのために当院へ入院が必要となった透析患者さんの治療を行なっております。これまで、きぼう棟2階にありましたが、今年の10月にきぼう棟3階の旧化学療法センターに移転しました。これまでの2倍以上のスペースがあり、広く明るい空間で患者さんの評判も上々です。現在、日本では約33万人の方が人工透析を受けており、その数は年々増加しています。特に高齢者の増加が著しく、様々な合併症のため入院が必要になるケースも増えています。当院へ入院される透析患者さんも合併症の治療や手術が必要となることがほとんどで、病状・病態も複雑で非常に多岐にわたります。手術の前後など

は特に細やかな管理が必要で、医師、スタッフ間で十分な情報共有を図りつつ治療を行なっています。現在、透析ベッド5床での運用ですが、当院の病院の規模からするとベッド数は必ずしも十分でなく、しばしば満床となることがあります。このため入院や手術の延期が必要になることもあり、今後は透析患者さんの入院治療がより円滑に行えるようにベッド数を順次増加していく予定です。患者さんが安心して透析治療を受けられるように引き続き環境整備を進めていきたいと思っております。



新生パンダハウス

今年4月にハウスのリニューアルが完成し、「新生パンダハウス」として出発しました。長期治療が必要な方にも利用していただきやすいように、3室から7室に増やした部屋は、ほとんど埋まってしまう状態です。さらに、新しいハウスには、「みんなのほーる」というキッチン付きの多目的ホールと、個室の「相談室」があります。こちらは、家族会や当事者の方に、会合やお楽しみイベントなどをご利用いただいております。また、公立大学法人福島県立医科大学と協定を結んで派遣している相談員は、附属病院患者サポートセンターの相談員として、小児の療養支援に関する相談やケース会議等に参加させていただいております。

新しくなったハウスが初代のハウスと同様に、子どもたちやご家族の方々にとって心あたたまる「第二の我が家」となりますよう、歩みを進めています。10月に東邦銀行福島医大病院支店さまよりいただいた「パンダうさぎ」は、ハウスにさらなる癒しをもたらしてくれています。また、療養生活に伴い生じるさまざまな心配ごとに対応できる相談事業をしっかりと根付かせることができるように、今後とも頑張っていきたいと思っております。どうぞ、引

き続きあたたかくお見守りいただけますようお願いいたします。



すべてを地域のために
東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331 (受付時間：平日午前9時から午後5時)

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやバスターリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

